

第2次木津川市生涯学習推進計画策定委員会 開催結果要旨

会議名	第2次木津川市生涯学習推進計画(第3回)策定委員会		
日時	令和5年11月13日(月) 13時30分~15時00分まで	場所	市役所 5階 全員協議会室
出席者	委員	前平委員長、高原副委員長、木村委員、生田委員、河口委員、市川委員、米田委員	
	事務局	竹本部長、吉岡次長、東村課長、藤田課長補佐、秋元係長、堀係長	
<p>1.開会 事務局より開会を宣言した。</p> <p>2.事務局挨拶 教育部長より開会にあたり次のとおり挨拶があった。</p> <p>これまで2回の策定委員会において、学習や文化活動、スポーツやレクリエーション活動等を通して、市民の方々が生涯にわたり、生き生きと過ごせるきっかけとなるよう、様々な角度からご意見をいただいた。</p> <p>その後、ワーキング委員会での議論を踏まえ修正したものを素案としてお示しさせていただく。本日の審議の内容を踏まえ、中間案として取りまとめ、次にパブリックコメントにおいて広く市民の方のご意見をお聞きしていきたいと考えている。限られた時間ではあるが、それぞれのお立場から活発なご意見をお願い申し上げる。</p> <p>3.議事 ①第2次生涯学習推進計画(素案)について 資料1を基に第2次計画の素案について、事務局より説明を行った。</p> <p>(委員) 先般ワーキング委員会を行い、赤で修正を加えていただいているとおり、いろんな意見が多く出て、事務局の方で修正点について確認いただき、大変ご苦労いただいたと思う。</p> <p>全体的に文言の統一をしていただいたと思うが、例えば、「取り組み」については、名詞的な活用をする場合は漢字二字とし、動詞的な活用の場合は「り」と「み」を入れて統一されたと思う。今後、パブリックコメントに向けての最終段階なので、そのことも含め細かい点もあるが、気付いたことについて、述べさせていただく。</p> <p>7ページ5行目に学校活動の支援とあるが、あまり「学校活動」という言葉を使ったことがないので、学校といえば教育なので「学校教育活動」という方が分かりやすいと思う。</p> <p>次に10行目、「講座開設等に取り組ました。」とあるが、ここは動詞的活用であるため、「り」と「み」がいる。</p> <p>次に(3)の第2段落、「具体的には、～作ってきました。」までの文章が一つの文章で切れておらず、主語と述語が分からない内容になっているので、見直しをされた方が良い。</p>			

次に9ページの下から10行目、「時間がない(47%)ですが、一方、」とあるが、繋ぎ方がおかしいので、「時間がない(47%)です。」として、「が、一方」を省いた方が良い。

次に、その2行下、「だれもがいつでもどこでも」とあるが、後のページでは、「誰もが」と漢字になっている所があるので、統一する必要がある。

次に19ページ2行目、「取り組み状況」とあるが、「り」と「み」はいらぬ。21ページの一番上も同じように「り」と「み」はいらぬ。

(委員)

10ページ、「まちづくり」が削除され、「地域づくり」に統一されているが、何か意図はあるのかお聞きしたい。

7ページの一番最後に「講師やボランティア情報の共有について十分でないことから、人材の有効活用方法について研究を行うとともに市内在住・在勤者や出身者の有能な人材を発掘し積極的に活用していく必要があります。」とあるが、これについては大賛成である。

5年ほど前に木津川市出身のバイオリニストが頑張っておられるという情報を聞き、講演に出ただけのことがあるが、地元出身ということで、市民の方も興味を持たれ多数の参加があった。

このように人材の有効活用をすることができたら、私達も共有ができ計画も立てやすくなる。人材発掘をして積極的に活用していく必要があるとなっているが、もう一歩前進して、登録的なところまでできたら良いのではないかと考える。

(委員)

7ページの下から6行目、「市民運動会や歴史めぐりマラソン、市民スポーツ大会・教室等・各種スポーツイベントを開催することによりスポーツに親しみ、市民が交流できる機会を作ってきました。」とあるが、これは取り組みとどう違うのか。

(事務局)

市民の方が足を運んでいただく場を積極的に作っていくという意味を込め、「機会を作ってきました。」という表現にさせていただいた。

(委員)

6ページの下から3行目、「生涯学習に取り組む指導者の確保やリーダーの養成、新規メンバーの確保等、各団体は様々な課題を抱えながら活動されています。」とあるが、これは団体が行うものなのか、それとも行政が行うものなのか。

(事務局)

スポーツや文化活動の養成をどのようにしていくのかというのは、ここに書いている課題のとおりであると思っている。それについては、行政としてできることと、団体が自発的に行うことの両方があると思う。行政としては、そのような機会を設けたり、団体としては、自発的に後継者の育成を行うというように様々なパターンがあるので、一概に行政がやるべき、また行政がタッチしないで各団体がすべきであるというようにはならない。

行政としては、各団体と協力しながら、そのような機会を設け、機会があれば、その方々に案内等をして取り組んでいきたいと思っている。

(委員)

5ページ、今回追加となったSDGSの各ゴール目標の内容であるが、一番下に書いてあるように出典が国連広報センターホームページとなっているが、これを忠実に抜粋して掲載された

ということか。

(事務局)

出典そのまま掲載している。

(委員)

6 ページ(1)2行目、取り組む可能性がある市民の方が多くいると修正されているが、いるという表現にするのであれば、「の方」がない方が良いのではないかと思います。

11 ページ(1)2行目、「数多くいます。」に修正されている。その前に「方」が3つあるが、「人」の方が良いのではないかと思います。

参考資料の21ページ(4)の問いは、これについては何らかの学習に取り組んでおられる方を対象とした設問なのか、1,557名全員に対するものなのか、どちらなのか。

(事務局)

取組頻度については、していない方も含まれているので、回答総数1,557名全員の答えである。

(委員)

となると、していない方が28%ということで、している方は72%ということで、前のページでは一番下のところで、今回調査では取り組んでいる方が78%になっている。これはどこから出てきた数字なのか。

(事務局)

再度確認させていただく。

(委員)

同じ(4)のグラフだが、複数回答ではないと思うが100%を超えている。合計130ぐらいになり、超えるのはどうかと思うので、再度確認が必要である。

そのほか9%ということで、ここに当てはまらない回数、例えば週5、6回以上の方や3週間に1回しかされない方等、そういう方と推測するが、その他はどのような方なのか。

(事務局)

例えば1日に朝夕2回される方や5回以上される方もおられるので、そのような方がその他に該当すると考える。

(委員)

このグラフは、上から週4~5回、週2~3回、週1回としているのであれば、「その他」を「していない」の上に持っていった方が良いのではないかと思います。

27 ページ(13)の問いだが、これも複数回答可だと思うので、(○はいくつでも)を入れるべきである。

(委員)

1ページの下から7行目、「本計画の策定にあたっては、教育基本法をはじめ国や府が示す生涯学習の方向性等を」となっているが、生涯学習振興法という法律があるので、その文言を加えてはどうか。

先ほども意見があったが、指導者、講師それらの特技を持った方の登録制について、私も提案したいと思っていた。有識者の方や無資格の方でも特技を持っておられる方は沢山おられる。そのような人材を登録制にして活用できたら良いのではないかと考えており、この計画に載せるのは別として、実務的な面で今後考えていただけたらどうかと思う。

(事務局)

1点目について、教育基本法は引用しているが、生涯学習振興法については、内容を確認して、記載するか検討させていただく。

2点目については、17ページの基本目標3の(1)に四角囲みの欄に「人材活用リストの作成」と目標の中に掲げており、例えば人権推進課であれば男女共同参画の関係で人材バンク的なものを作っておられたり、生涯学習の分野においても他市町では、人材リスト、講師リストを作っておられるところもあるので、そういった先進地のやり方を参考にしながら作成していきたいと思うが、難しいところもあるので、皆さんのお知恵をお借りしながら今後取り組んでいきたいと思っている。

(委員)

10年前の計画と比べ、今回この計画を読むと、かなりすっきりした内容になっていると思った。1次の計画が悪かったというのではなく、前は思いがいっぱいあり、あれもこれも入れなくては、ということで文章が沢山入ってしまった。その時は、それで皆さん納得されていたが、10年経って読み返すと、もう少しすっきり文章をまとめた方が良かったと感じる。

文章内に推進、拡充、充実、促進、検討という言葉が沢山出てくるが、いろいろ言葉を変えて、文章にあったように上手く使っておられるなと思った。

ICT等、いろいろ難しい言葉が出てくるが、その後ろに(情報通信技術)というように書かれており、分かりやすくされているので、それも良かったと思った。

(事務局)

いろいろご意見をいただき、文章の読みづらいうところは、事務局の方で読みやすいような形に再度統一させていただく。

アンケート集計については、複数回答ではないところのパーセンテージがおかしくなっているので、確認して修正させていただく。

(委員長)

SDGS のところの意見だが、生涯学習というのは、その地域に根差したそれぞれの学習ということが大事になってくるからこそ、それぞれの市町村が作っている訳であり、国連がこういうことをやっていますというのは、否定しないが、それをどんどん広報して、それを実現していくことについてはやぶさかではない。ただ、本文の中に、こういう形で図表を入れていくというのは、国連がやっているから、私達もやりましょうというふうになり、この計画の中に入れていくということについては、どうなんだろうと少し疑問を感じた。木津川市の計画に国連のことを書くのは、そういう市町村があるのかもしれないが、自立していないような印象を持ったので、事務局やワーキング委員会で考えていただけたらどうかと思う。

(委員)

10ページのところで、「まちづくり」という表現が「地域づくり」に変わっているが、意図があるなら教えていただきたい。

(事務局)

これについては、表記の統一を図るということで、地域づくりで統一していこうということで、ワーキング委員会で指摘があり、それを受けて事務局で検討した結果、このようにさせていただいた。

(委員)

10ページの3行目、「今後、市民一人一人が学んだ成果を活かし」とあるが、一人一人がどこで何を学んだ成果を活かそうとしているのかという点が分からない。

(事務局)

これについては非常に広い範囲のことがあると思う。例えば、市民文化祭で日頃の教室等で学んだことを発表したり、それが地域での交流が広まり活気ある木津川市になっていくということもある。また、企業等で長年勤めておられた方の技術や見識を活かして、地域で貢献されるといった、いろんなケースがあるので一概になんとも言えないところがあり、これを具体的にというのは、なかなか難しいところがある。

(委員)

この文章をここへ入れることが果たして適切なのか、この後の繋がりにからして、「地域づくりに関わりたい意欲ある多くの市民を地域活動へと結びつけるための仕組みづくりが必要です。」この文章を読んで意味が分かれば良いのだが、私が理解できないだけなのでしょうか。

(委員長)

市民一人一人が学んだ成果というのは、基本的には市民一人一人が享受すべきものであり、もちろんそれが直接、地域づくりに関わっても良いのだが、関わらないこともあるので、それを「市民一人一人が学んだ成果を活かして、活気ある地域づくりに関わりたい意欲ある多くの市民を」というように繋げていくと、個人の学習の重要性が拡散してしまう。つまり、委員の発言は、地域づくりと直結することだけが生涯学習の目的であるかのように思われることを懸念しているのではないかなと思うので、単なる文言が論理的ではないということだけではなく、その背景にはそういうことが入っているのではないかと委員の意見を推測したところである。

(委員)

「市民一人一人が学んだ成果を活かし」の部分を取っても良いのではないかなと思うが。

(委員)

削除するのは反対である。基本理念に、人をはぐくみ ころろを結ぶとあるが、この2番目の部分ではないかなと思う。この設問が「地域づくりに関わりたいですか。」ということなので、何らかの学んでいることがあって、自分達が学んだことを心を結んで他にも伝えていきたいということで、それ全体として、生涯学習を高めていきたいということであれば、この文言は置いておくべきで、逆になかったらおかしいと思う。

(事務局)

ひとつの考え方としては、基本理念で、人を育て、それが心を結ぶことになり、最後には、まちをつくるということになっているのかなと思うので、生涯学習を進めていくには、一人一人の活動があって、それが一緒に活動をされたり、またその活動をされているところを見て、自分もやってみようとか、そこでの人との繋がりができて、それが町の活性化に繋がるということにも考えられるので、そういうことで言うと、今の一人一人が学んだ成果を活かすということもあって良いのかなと思うので、8ページから始まっている7番の生涯学習を取り巻く現状と課題ということで、(1)分析確認して、アンケートの分析、その次に【生涯学習について】ということで書かれているもの、そして次に【地域や社会での活動について】ということになるので、この構成の中でいくと、ここがそれぞれの人が生涯学習に取り組まれたものを、こういった形で地域の活動や社会に対して活かしていけるのかを書いた分野なのかということにも取れるので、いかがか。

(委員長)

ここは8~10ページの市民アンケート調査の概要と分析という項目の中で出されたところで、問いに対して分析をしたということなので、市民一人一人が学んだ成果を活かし、活気ある地域づくりに関わりたい意欲がある多くの市民を地域活動へと結びつけるための仕組みづくりが必要です。ということで、活かしは、地域づくりに関わりたい意欲がある多くの市民という、そういう文脈で見ると、おかしくはないと思う。市民一人一人が成果を活かしたものを、どうしても地域づくりに関わらなければいけないかというふうに読むことも可能だが、もう一方で、この学んだ成果を活かすことと、それから地域づくりに関わりたいと思っている人、その意欲がある多くの市民というふうに繋がっていくと、それはそれで良いと思うので、文章をもう少しブラッシュアップしてもらえれば、もっとはっきりすると思うので、文言をちょっと変えてはどうか。

(委員)

意味が分からないというのは、学んだ成果というのは何を指すのかが分からないので、それが分かるような表現にして、その辺を補えば意味が分かるようになるのではないか。

(事務局)

先ほどのSDGsの件について、現在、木津川市総合計画の後期を作成しており、そちらでもSDGsに関わって、項目を起こしたり、定義付けをしているので、生涯学習推進計画の上位になる総合計画の表現に合わせるよう調整したいと考えている。

(委員)

現在、生涯学習推進計画は第2次ということで進めているが、10年前に教育振興基本計画も第1次を策定したと記憶している。そちらの計画も同じように2次の策定を進めているのか参考に教えていただきたい。

(事務局)

教育振興基本計画も令和5年度末までの計画となっており、令和6年度からの10年間の計画を現在進めているところであり、生涯学習推進計画と同時進行で、同じ時期にパブリックコメントをかけさせていただく予定である。

教育振興基本計画は、子ども達たちの教育を中心とした計画だが、子ども達の教育は学校教育だけではなく、地域の方々のお力をお借りしての教育という部分が大きくなるので、そのような面では教育振興基本計画と生涯学習推進計画は、ある程度の関連を持っているので、そのような目線で、現在、同時に作らせていただいているところである。

(委員長)

生涯学習推進計画の中に「学校教育」ということが、あまり触れられていないが、それはそれで良いのか。別のところで、恐らくきちんとしたものがあると思うが、その整合性とか、計画の中で少し出てくるが、学校、地域社会、そして家庭という形で3つに分けており、その学校については、あまり触れられていないので、それはもう了解して良いのか気になったところである。

(事務局)

教育振興基本計画が子ども達の学校、子ども達の教育を中心としたもので、生涯学習というのは、子どもから高齢者まで一生涯を通じたもの。その一生涯の中で、学校教育、公立学校において、中央教育審議会等で示される新たな今後10年間の教育目標に則って、当市の学校教育をどのようにしていくかというのが教育振興基本計画である。

(委員長)

生涯学習というのは、人生の誕生から死までという、時間スパンもさることながら、もう一方で横スパンのそれぞれの年齢段階、世代によって行われる学習もある。学校教育の子ども達、学校に在籍している子ども達もいろんな接点で社会教育活動を行っている。社会教育というのは高齢者や成人だけが社会教育を担っている訳ではなく、子ども、青少年も社会教育活動を行っており、レクリエーション活動や課外活動もそれに入るので、それらすべてが生涯学習だという考え方は忘れて欲しくないと思う。

4. その他

資料2を基に今後の予定について、事務局より説明を行った。

次回の策定委員会(第4回)の日程について、2月9日(金)午後、2月16日(金)午前で調整し、改めて連絡することとなった。

5. 閉会

事務局より閉会を宣言した。

以上

その他特記事項

傍聴者0人、報道関係者0人